

競 技 注 意 事 項

本大会の競技は、2021年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会要項により行う。

1. ウォーミングアップ・練習について

1日目については、多目的グラウンドを他団体が使用するため、競技場外の周回コースを使用すること（周回コースを使用する場合は、順走でジョグのみ利用可能とする。スパイクは不可とする）。2日目については、すべて競技場外側の多目的グラウンドを使用すること。

ただし、1日目は8:45まで、2日目は9:15までは競技場内での練習も可能とする（競技場内の練習は今大会にエントリーしている選手のみとする）。

また、1日目開始式終了後～10:15まで、12:00～15:00までの時間帯は、バックストレートでの練習を認める（ハードル等器具の使用は禁止）。ただし、円盤投、棒高跳の競技中となるので、競技役員の指示に従うこと。

投てき種目においては、砲丸・円盤・メディシンボール等を用いた練習はいかなる場所においても認めない。

2. 招集について

ア. 競技者の招集場所は競技場外側全天候走路に設ける。

イ. 招集時は必ずマスクを着用すること。

ウ. 招集開始時刻はその競技の開始時刻を基準とし、下記のように定める。

トラック競技1～5組・・・30分前に開始し20分前に終了する。

6組以降・・・10分前に開始し競技開始時刻に終了する。

フィールド競技・・・50分前に開始し40分前に終了する。

エ. 招集の手順

① 競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。

その際、係員にナンバーカードとスパイクの確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。

② 四種競技出場者は両日とも最初の種目は招集所でウの①に従い競技者係の点呼を受ける。以降は招集所に集合し、混成競技係（競技者係）により点呼を受ける。フィールド競技に関しても招集完了時刻に招集所に集合とする。

3. 競技について

ア. 危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。

イ. 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。したがって、トラック競技出場者は右腰やや後方に、主催者が用意した腰ナンバーカードをつけること。フィニッシュ後は腰ナンバーカードを必ず返却すること。

ウ. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。決勝の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは正面玄関付近に掲示する。

エ. 決勝進出における α は100分の1秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は1000分の1秒まで読み取り進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。

オ. ナンバーカード（横22～24cm×縦16～20cm）は個人登録番号とし、太さ2cm程度の明瞭な文字で書いてユニフォームの背と胸に付けること（跳躍競技は背または胸いずれか一方でよい）。

カ. リレー競走について

① リレー競走については、競技規則第170条を厳守すること。

② 同一チームの4名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。

③ 各走者は1カ所にかぎり粘着テープをマーカー（テープの大きさは50mm×400mm以内）として使用できる。

④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者の邪魔にならないようレーン内にとどまること。

⑤ リレーオーダー用紙は、学校受付で所定の用紙を1チームにつき2部ずつ受け取り（『スパイクの跡』綴じ込みのもの可）、招集完了時刻1時間前までに競技者係に提出すること。決勝進出の場合も競技者係から改めてリレーオーダー用紙を受け取り提出すること。第2日目に行われるリレー種目のオーダー用紙の提出はできるかぎり第1日目終了までに提出されたい（ただし、15:00まで）。

キ. 「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある。（競技規則第162条5項（a）（b）（c））同じ競技者が同じレースの中で2度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は1回で失格となる（ただし、四種競技においては、不正スタート2回目以降は誰でも失格の対象となるルールを適用する）。

ク. 競技規則第162条5（c）『「位置について（on your marks）」の合図の後、ある競技者が音声その他の方法で、他の競技者の邪魔をしているとスターターが判断したときは不正スタートとみなされる』により、スターターの「on your marks」の合図で「お願いします」等のかけ声はかけないこと。

- ケ. 競技規則第143条（TR5：シューズ）の改訂に伴い、トラック種目ではソールの厚さが規定以上のシューズは出場できない（800m未満は20mm以内、800m以上は25mm以内）。シューズは招集時に計測する。また、フィールド種目については本規則を適応除外とするため、靴底厚確認のための計測は行わない。
- コ. 次のラウンドへ進出できた競技者で、やむなく次のラウンドを棄権する場合は、総務まで棄権届を提出すること。棄権届は総務から受け取ること。
- サ. 走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投については、予選の試技を2本とする（ただし、四種競技の砲丸投の試技については3本とする）。

4. バーの上げ方

	種 目	練 習	試 技 に お け る 上 げ 方
男子	走 高 跳	140cm/125cm	130 - 135 - 140 - 145 - 150 - 155 - 160 - 165・・・
	四種走高跳	1 2 0 c m	125 - 130 - 135 - 140 - 145 - 150 - 155 - 160・・・
	棒 高 跳	2 1 0 c m	220 - 230 - 240 - 250 - 260 - 270 - 280 - 290・・・
女子	走 高 跳	120cm/110cm	115 - 120 - 125 - 130 - 135 - 140 - 145 - 148・・・
	四種走高跳	1 1 0 c m	115 - 120 - 125 - 130 - 135 - 140 - 143 - 146・・・

第1位が同成績の場合の順位決定は、同成績の競技者全員が成功した次の高さで行い、その後のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

5. 表彰・学校対抗および得点について

- ア. 決勝において第3位までに入賞した競技者は、決勝結果の通告後すみやかに表彰席に集合のこと。
（表彰には競技服装・運動靴で臨むこと）
- イ. 学校対抗における団体表彰は男子総合・女子総合・男女総合とも第3位まで行う。
- ウ. 学校対抗得点は各種目1位8点、2位7点、・・・、8位1点とする。

6. 救急医療について

出場競技者の競技中の疾病および傷害については、応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、太会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

7. その他

- ア. 本大会は「無観客」とする。競技場内への入場できるのは競技者、補助員、競技役員、引率者の必要最低限の人数とし、IDカードによる入場制限を行う。
- イ. 競技場での競技者の移動はスタンド外を利用すること。特に本部前の通行およびメインスタンド下は立ち入り禁止とする。また、競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと（第144条により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある）。
- ウ. 毎朝、各校で参加者全員の健康カードを取りまとめ、学校受付において「チェックシート」を提出すること。布引陸上競技場に提出する「体調チェックシート」についても、学校受付において提出すること。
- エ. テントは各校指定された場所に設置すること。
- オ. 各校テント内や競技中の待機時間など、競技以外の時間は必ずマスクを着用すること。また、声を出しての応援は禁止する。食事に関しても黙食を徹底する。さらに、スタンド等で他校との接触をしないこと。
- カ. 参加者は設置してあるアルコールを用いて、適時消毒を行うなど感染予防に努めること。また、競技終了後は必ず消毒を行うこと。
- キ. 更衣室の利用については、更衣のみとする。必ずマスクを着用し、短時間での利用を徹底すること。出入口に設置してあるアルコールで消毒すること。
- ク. 助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、確実にはがして持ち帰ること。
- ケ. 貴重品等の管理は各校で十分注意すること。
- コ. 競技開始前の競技場でのウォーミングアップは1・2レーンを周回レーン、3～9レーンを流し・ダッシュレーン（ただしメインストレートの8・9レーンはハードル専用レーン）とする。また、リレーのバトン練習はバックストレートのみとする。